

関経連 科学技術委員会 研究成果の活用・事業化促進検討グループ報告 関西におけるコーディネーター育成方策の提案(要旨)(2001年5月9日)

第1章 検討の背景

1. アクションプランの取り組み経緯

本ワーキング・グループでは、関西におけるTLOの活動を支援する観点から、特にコーディネーターの問題に焦点をあてながら、関西経済再生アクションプラン「TLO支援環境の整備」の立案およびその実現に取り組んでいる。

2. アクションプランの活動状況

(1) TLOに関する調査報告書(2000年8月1日公表)

・ TLOの抱える課題を明らかにし、国への要望事項やTLO・大学等への提案事項をとりまとめるとともに、関経連自らの活動として、関西経済再生アクションプラン「TLO支援環境の整備」
として以下の3つの取り組みを提案。

(2) TLO総合支援ホームページ(2000年10月6日開設)

・ ①リンク集によるTLO・大学側情報、②企業情報、③関西の弁理士情報、④関経連推薦コーディネーター人材情報、⑤関連情報のリンク集。

(3) TLO等へのコーディネーター紹介(2000年11月以降)

・ 国の制度を通して、関西地区のTLO等に対して、優れたコーディネーター人材(関経連会員企業OB)を紹介。

3. アクションプラン - コーディネーター育成方策の提案

・ 本報告書は、コーディネーター育成の現状と課題を整理し、関西におけるコーディネーター育成方策の提案を行い、関係機関に対して連携・協力の呼びかけを行うとともに、政府および大学に対して人材の育成等についての提案・要望を行うもの。



第2章 コーディネーター育成の現状と課題

1. コーディネーターとは

大学等と産業界との技術移転の橋渡し役。大学等における技術シーズの発掘、事業性の評価、移転先企業やベンチャーへのマーケティング、必要に応じて技術シーズの加工などを行う。

2. コーディネーターに関する現状と課題

・ 米国では、技術移転のコーディネーターが一つのビジネスとして社会的に認知されている。
・ わが国のTLOでは、TLO職員のほか、(財)日本テクノマートの特許流通アドバイザー等がコーディネーターの役割を果たしているが、コーディネーターは質量ともに十分とは言えず、その育成・確保が課題である。

3. コーディネーターに求められる要件

- ・技術だけでなく事業育成に関する知識が豊富で、起業家精神が旺盛で、大学等や産業界等に人的ネットワークを有する人材。

れている。

5. わが国におけるコーディネーター育成の取り組み

- ・コーディネーター育成が十分に行われている段階には至っておらず、企業等で一定の経験を積んだ人材がTLO等におけるOJT(オン・ザ・ジョブトレーニング)で能力向上を図っているのが一般的である。
- ・ただ、人材の育成・確保の重要性が高まる中で、2000年度から(財)日本テクノマートの取り組みが始まるなど、徐々に類似の取り組みが行われてきている。



- ・中小企業、および大企業の知的財産権部門や技術開発部門等でも、コーディネーターの育成・確保に対する関心は高い。

② 育成に向けた提案

- ・ 育成内容: 技術の値踏みや事業計画策定のための研修、事例研究、TLOでの実習、企業や大学・研究機関訪問など。
- ・ 受講対象: 企業OB等が中心。他に若い人材や大学職員等。
- ・ 情報通信技術の活用等による関西全域での育成展開の検討。

2. コーディネーターの育成・確保に関する政府等への要望

(1) 政府への要望

- ① 当面の方策: (財)日本テクノマートなど技術移転専門家育成に関する国の取り組みの充実・強化、特許流通アドバイザーの増強と派遣期間の延長措置などTLOへの人的支援強化。
- ② 中長期的課題: 育成と育成後の受け皿を合わせた仕組みの構築。

(2) 大学への提案

- ・ 大学・大学院における技術移転専門家育成のための教育。